



# 親知らずは



# するべきか?

鎌倉市歯科医師会 原 宣道

## 分別が付く

## 年齢から生え出る

## 「親知らず」

親知らずは英語で Wisdom tooth といいます。Wisdom は「知恵、分別」という意味ですから、物事の分別がつく年齢になってから生え出ることが名の由来とされています。通常10代後半から20歳頃にかけて永久歯の歯並びの一番奥に出てきます。しかし現代人は顎の骨格が小さいため、親知らずが正常にまっすぐ生え出るとは少なくなっています。親知らずの多くは歯茎に埋もれていたり、部分的に露出するだけか、歯並

びから外れて生え出てきたりします。そのため歯ブラシ等の手入れが上手に出来ず汚れが溜まり、その後様々な問題を引き起こすのです。

## 親知らずが

## 引き起こす問題

親知らずの問題として最も多いのは周囲歯肉の炎症です。部分的に露出していたり、歯並びから外れた親知らずの周囲歯肉が汚れをきっかけに細菌感染を来したり、あるいは咬み合わせにより向かい側の歯肉や頬粘膜を咬んでしまうことで腫れと痛みを伴う炎症を繰り返します。また炎症が顎の周囲

や喉に波及すると口を開けにくくなったり、飲み込みづらくなったりすることもあります。さらに重症化すると炎症が組織の隙間をつたい、顎よりも更に下方へ向かうことで蜂窩織炎や縦隔炎などを発症し、時に呼吸困難や敗血症により死に至ることもあります。

次に、むし歯の痛みです。親知らず自体がむし歯になるのは当然ですが、親知らずの歯冠が前方の歯根に接するようになっていると、その歯根が親知らずとの接点部分からむし歯になります。またむし歯でなくとも歯根吸収といっ

て接点部分の歯根が溶けてしまうこともあります。それらは肉眼ではわかりにくく、自覚症状がないと発見が遅れ、治療に難渋することがあります。その他に親知らずはその方向や位置によって前方の歯を押しこめ、しまし歯並びへの悪影響をもたらします。親知らずを抜いておけば、そうはならなかったはずという後悔もしばしばです。

## 問題のある歯は

## 若いうちに抜歯を

それでは親知らずは抜歯するべきでしょうか？正常に生え、咬み合って機能し、きちんと手入れが可能であれば、

抜歯の必要はありません。あるいは歯茎の中に完全に埋もれ、手前の歯との関係もなく、何ら症状がないような場合も経過を見てよいと思います。ただし、そのようなケースはむしろ稀です。先述した種々の問題を回避することを考慮すると、できるだけ若いうちに抜いておくことを私はお勧めします。また女性の場合は妊娠中に親知らずが痛みだすことがあり、時期によっては治療が困難となる場合もあります。妊娠前に親知らずも含めたチェックを受けるとよいでしょう。

親知らずの抜歯は特に歯茎に埋もれている場合、患者さんにとってはちょっと大変です。もちろん麻酔をするので処置時の痛みはさほどありませんが、抜歯後に親知らずの状態によっては数日から数週間にかけて反応性の痛みや腫れが続きます。また親知らずの歯根は下顎では顎骨の中心を通る神経や血管、上顎では上顎洞という骨空洞に近接しているため、処置前にはレントゲン写真、必要によりCT撮影を行い、安全に治療を行うことが大切です。まずは歯科医にご相談下さい。

(原歯科医院)